NIMD ニュース

NIMDフォーラム2026
「公式確認70年目の水俣病のアーカイブズ：収集・整備・公開の方法論」開催！

日　　時：2026年12月11日（金）10:00 ～ 17:30、12日（土）09:30 ～ 17:00（予定）
場　　所：水俣病情報センター講堂
参 加 費：無料
基調講演：上野千鶴子「民衆史を記録し残す―色川大吉資料の保存と活用」
登 壇 者：アイリーン・美緒子・スミス、杉本肇、松本周子他



上野 千鶴子
社会学者・
東京大学名誉教授・
WAN理事長

特設サイトおよび事前登録は
こちらから

NIMDフォーラム2026 特設サイト
https://accompany0.sakura.ne.jp/NIMD/

NIMDフォーラム2026 事前登録
https://forms.cloud.microsoft/r/eJmvs4nKQ1

国水研の動き　令和８年３月～令和８年７月

3/9	長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科研修 受入れ
3/16	海外行政担当者研修 受入れ
4/10	水俣市立総合医療センター 新規採用職員等研修 受入れ
5/1	令和８年度水俣病犠牲者慰霊式
5/22	JICA水銀管理能力強化プロジェクト（本邦研修）研修 受入れ
5/31	第71回恋龍祭市民パレード参加
7/25	一般公開（オープンラボ）



- みなくるバス
  青バス湯の児線 とんとん峠下車 700m（徒歩約12分）
- JR 新水俣駅から5.5km
- 肥薩おれんじ鉄道 水俣駅から4.6km

NIMD PLUS YOU　ニムド プラス ユー　No.61（2026.10）
編集・発行　環境省国立水俣病総合研究センター
〒867-0008 熊本県水俣市浜 4058-18
TEL 0966-63-3111　FAX 0966-61-1145　ホームページ https://nimd.env.go.jp

facebookでも情報発信しています！

NIMD





NIMD PLUS YOU

環境省 国立水俣病総合研究センター 広報誌　ニムド プラス ユー



研究室の紹介

環境・保健研究部
環境化学研究室

基礎研究部
衛生化学研究室

トピックス

研究評価会議開催報告

熊本県立水俣高等学校との連携事業

一般公開（オープンラボ）を開催





No. 61
令和8年（2026年）10月発行
https://nimd.env.go.jp

はじめに

国立水俣病総合研究センターの広報誌である
「NIMD＋you」を手に取っていただきありがとうございます。
今号では、水俣高校の生徒さんとの取り組み、一般公開等について
ご紹介させていただきます。
また、研究室紹介では、環境化学研究室（丸本）と
衛生化学研究室（永野）の日々の取組や成果についても紹介します。
今後も皆様のご意見などをお伺いしながら内容を充実させ、
情報発信を行っていきたいと思います。
引き続き、ご支援をよろしくお願いします。

NIMD PLUS YOU

組織体制

NIMD

- 所長
  - 所長特任補佐（非常勤）
  - 次長
    - 統括調整官
    - 主任研究企画官
    - 研究総合調整官
  - 総務課
    - 庶務係
    - 経理係
  - 国際・総合研究部
    - 国際・情報室
      - 国際係
      - 情報係
    - 地域政策研究室
    - 水銀分析技術研究室
  - 臨床部
    - 総合臨床室
      - 臨床検査技師
      - 看護師
    - リハビリテーション室
      - 作業療法士
  - 基礎研究部
    - 毒性病態研究室
    - 生理影響研究室
    - 衛生化学研究室
  - 環境・保健研究部
    - 生態学研究室
    - 環境化学研究室
    - 環境保健研究室

新入職員紹介



臨床部 総合臨床室
窪田聖菜

令和8年4月1日より、国立水俣病総合研究センター臨床部 総合臨床室に入職いたしました窪田聖菜です。
看護師免許取得後は、病院での勤務を通して、介護予防や健康づくりに関心を持ちました。地元である水俣で地域福祉支援に携わりながら、地域の皆さまの健康や暮らしに寄り添うとともに、臨床部の研究や業務に貢献できるよう精一杯努めてまいります。
愛犬と散歩をしたり、スポーツに参加したりして、地域の方々との交流も楽しんでいます。
どうぞよろしくお願いいたします。

学術論文紹介

「血液の“ものさし”で、水銀測定をもっと正確に」

血液中の総水銀やメチル水銀を正しく測るための新しい標準物質を開発しました。常温での輸送・保存がしやすいことが特長です。これにより、冷蔵設備が十分でない地域でも利用しやすく、水銀対策を進める国際的な取り組みに役立つことが期待されます。

発表論文：Method Development and Production of an Ambient-Stable Blood Certified Reference Material for Total Mercury, Methylmercury, and Trace Elements
掲載誌：Analytica Chimica Acta, 1409, 345580, 2026.



国水研の 研究室
NIMD Laboratory



環境・保健研究部

環境化学研究室

研究室の取り組み・目的

当研究室は、地球規模の環境汚染物質として認識されている水銀のアジアー太平洋地域を対象とした広域レベルの環境循環を解明するために活動しています。野外調査、室内実験、各種分析などを含めた総合的な研究を行っており、研究対象とする媒体も大気、水、土壌、底質、生物と多岐にわたっています。野外調査では、大気・降水中水銀のモニタリングを日本列島の各地で実施しています。また、水俣湾や瀬戸内海などの沿岸域から北太平洋の外洋域までの広範囲で海洋観測を実施して、データを蓄積しています。

研究内容

現在、海洋環境を主とした水銀の形態変化と媒体間の移動速度及び移動量を定量的に評価していくため、以下の4つのサブテーマを設定し、研究を進めています。

(1)大気から海洋への水銀の湿性・乾性沈着量の定量化
(2)大気ー海洋間のガス状水銀の交換量の定量化
(3)海洋から海洋生物への水銀移行速度及び海洋生物への蓄積量の把握
(4)海洋生物の沈降に伴う深海への水銀輸送速度及び移動量の定量化

(1)では、大気から地表に水銀が到達する過程のうち、降水による湿性沈着量を全国7地点において1週間単位で観測しています。また、定量化が難しいガスの拡散や大気粒子の沈降による乾性沈着についても簡便な評価方法を提案し、開発しているところです。(2)では、海洋から放出される水銀量を明らかにするために、沿岸域では小さな研究船や漁船に、外洋域では4000〜6000トンクラスの大きな研究船に乗り込んで海洋表層のガス状水銀と大気中の水銀、水質、気象などを観測しています。(3)(4)では、海水中の水銀が海洋生物に取り込まれる量を定量的に把握するため、プランクトンや魚の水銀濃度を計測しています。また、海洋表層で海洋生物に取り込まれた水銀が、生物が死んで深海に輸送されていくときに、どのくらいが再び海水に溶出して、どのくらいが海底に到達するのかも調べています。これらの研究により、水銀がどこにどのくらいの期間で滞留するのか、どのような移行速度で動いているか、その滞留期間や移行速度が環境条件でどう変わるのかがわかってくるので、大気や海洋における将来的な環境条件の変化で水銀の循環量がどのように変化するかという将来予測を行えるようになります。


北太平洋における海洋観測の様子。上の写真は海水のサンプリング、下の写真はプランクトンのサンプリング。



基礎研究部

衛生化学研究室

研究室の取り組み・目的

水銀に関する水俣条約には「(第16条第1項(c))水銀又は水銀化合物への曝露によって影響を受ける人々に対する予防、治療及びケアのための適当な保健サービスを促進すること」及び「(第18条第1項(b))水銀及び水銀化合物への曝露が人の健康及び環境に及ぼす影響に関連する教育、訓練及び啓発を行うこと」が定められています。私の研究チームでは、これらの課題にも対応するため下記の研究と業務に取り組んでいます。

研究内容

メチル水銀の健康へのリスク低減を目的とした機能性食品の研究

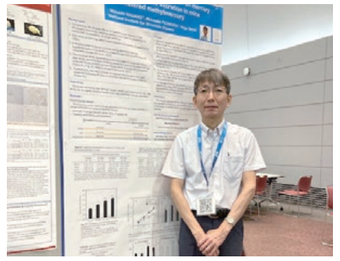
食物はメチル水銀の吸収や排泄を変化させうることから、その蓄積や毒性に影響を及ぼす可能性があります。これまでに、食品成分である小麦ふすま(ブラン)*やフラクトオリゴ糖**の摂取がメチル水銀投与後の水銀排泄を促し、マウスの組織中水銀濃度を減少させることを明らかにしてきました。さらに、ブランはメチル水銀によるマウスの大脳皮質神経障害を軽減するという知見も得ています。

*シリアル、パン、焼き菓子等に使用されている。
**消化酵素によって分解されないオリゴ糖の代表の1つ。

業務紹介

環境中の水銀に関する普及啓発に貢献

私たちは、主に魚介類を食べることによってメチル水銀を摂取しています。体内に吸収されたメチル水銀は髪の毛(毛髪)にも取り込まれ、毛髪中水銀濃度はメチル水銀曝露の指標としてよく用いられています。国水研では、一般公開の来場者(毎年7月開催)や付属施設・水俣病情報センター(水俣市明神町)来館者のうち希望者に対して、毛髪を使った水銀測定を行っています。また、メチル水銀に関するパンフレットをホームページから入手できます。

学会での研究成果発表




メチル水銀に関するパンフレット


毛髪の水銀測定

NIMDトピックス その1

研究評価会議開催報告

環境省に設置されている国立水俣病総合研究センター（以下「国水研」）は、昭和53（1978）年10月に創立されました。国水研は、国費を用いて運営し、研究及び業務を実施している研究機関であり、かつ水俣病発生地である水俣に設置されている機関です。したがって、国水研の運営及び活動については、自ら適切な外部評価を実施し、設置目的に則って、国内外に広く、かつ、地元に対して貢献していかなければなりません。今回の研究評価は、令和7年度における国水研の研究の妥当性、有効性を評価し、以て国水研の調査研究活動の効率化と活性化を図ることを目的として、令和8年3月30日及び31日に開催されました。外部評価委員8名により「おおむね順調に研究が進んでいる」と評価されました。



主任研究企画官　藤村成剛

NIMDトピックス その2

水俣高校の生徒さんとの取り組み

国立水俣病総合研究センターは、地元の熊本県立水俣高等学校と連携協定を結び、様々な事業の支援を行っています。昨年度の取り組みの一つとして、1年生の「総合的な探究の時間」のカリキュラムを水俣高校の柳生佐保先生と作り直し、水銀や水俣病に関する学びを深めてもらえるよう工夫した授業を実施いたしました。複数回にわたる授業を1年生の有志17名が32ページのリーフレットにまとめ、環境研究総合推進費（JPMEERF20255M06）により発行いたしましたので、ご興味のある方は水俣高校のHPに掲載されていますので是非ご覧ください。



NIMDトピックス その3

令和8年度

オープンラボ 一般公開 開催





今年も7月25日（土）に一般公開（オープンラボ）を開催しました！

この日は快晴で、350名以上の来場者の皆様に海洋プラスチックゴミを使用したアクセサリー作りや、キラキラシールやボトル作り、ヤドカリの貝殻交換の観察など13の企画を楽しんでいただきました。ご意見箱には「普段入ることができない研究所に入れて楽しかった」や「子どもの動きをたくさん褒めてくれた」などがあり、ご好評をいただきました。来年も皆様のご来場をお待ちしております！











